

第7回高浜市子ども貧困対策会議 議事要旨

日 時：令和元年7月18日(木)
10時00分～12時00分
場 所：いきいき広場2階ホール
委 員：資料のとおり

1. 開会

2. 前回の議論を踏まえた対応等について

資料3記載の事項について、それぞれ意見交換がされた。主な発言の内容は、以下のとおり。

○不登校や基礎学力の不足により学校の授業についていけない生徒について、「ステップ」につながっている生徒はカバーできているとのことだが、高浜市全体の状況や今後の学習支援へのつなげ方等、分かれば教えて欲しい。

○後程、議題3で説明するが、高浜市における不登校や長期欠席の状況については、資料4の2枚目に記載している。これは学校から教育委員会に上がってくる人数で、不登校だけでなく入院等で学校に来られなくなった子どもも入っている。

また、子ども健全育成支援員として不登校児童・生徒を支援する際、「ステップ」や「ステップ・ジュニア」に行けそうな子どもには利用を勧め、難しい子どもについては自宅に向いて支援をしている。

○卒業年次の高校3年生全員の進路が確定したということで、ここが事業の一番の大きな成果だと考えている。この3人について詳細を聞かせていただきたい。

また、学習支援開始時は「ステップ」に来ていた同学年の生徒が他にもいたと認識しているが、来なくなった理由について、例えば勉強する習慣が身に着き通う必要がなくなった等、様々あると思うが、進路等を含め把握しているのか。

○まず、進学した1人については、当初、県立高校に通っていたが、体調面等で休みがちになり、通信制の高校に転校した。当初、ゲームに興味があると言っていたが、情報系の学校や大学に通っているチャレンジサポーターと話をしたのをきっかけに進学を志すようになり、AO入試で大学に進学した。

また、就職した2名のうち、1人は当初看護師を希望しており、病院から内定を得たが、結果として企業に入社した。現在はサポーターとして活躍している。もう1人は当初音楽関係の演出の仕事を希望していたが、企業が限られていることもあり、キャリアカウンセリング等の支援を受け、舞台関係の会社に就職した。

なお、残りの同学年の生徒については、定時制で4年間で卒業予定の3年生が2人、部活等で大学に入ったり、就職している生徒もいる一方、連絡がとれなくなった生徒も2人いる。

○卒業生の進路については、議題3で説明するが、資料4に「ステップ」卒業生の状況を記載している。こちらは、「ステップ」に2回以上参加した生徒を調査対象としており、本人に連絡がとれない場合は学校やその生徒の友人等から卒業後の状況を聞いている。

○委員のご指摘のとおり、進路については大きな成果で、他市でここまで進路決定を支援し、詳細を調査している事例はない。学力の向上だけでなく、生徒が陥りやすいリスク、具体的には高校中退、進路未決・不安定就労、3年内離職の三つにどう出会わないように育てていくかが課題と考えている。連絡がつかない生徒もいるとのことだが、先駆的な事例として引き続き取り組んでいただきたい。

また、先ほどの看護師志望だった生徒は、「ステップ」がなかったら自分はどうなっていたか分からない、今後お返ししていきたいと話し、現在はチャレンジサポーターとして中高生を支える側におり、学習支援事業の大きな成果を感じた。

貧困の連鎖を防止するにはこのようなきめ細やかな進路決定支援をしっかりと行っていく必要があり、中退や早期離職防止まで見据え、長い目で子どもを見守っていく必要がある。コンパクトな高浜市だからできることであると考えている。

また、高校卒業時の進路先として進学だけでなく積極的な理由で就職を目指すことの意義を伝え、選択肢を示して欲しいと考えている。

○外国にルーツを持つ子どもについて、「ステップ」及び「ステップ・ジュニア」に通っている子どもは特に問題ないとのことだが、高浜市は愛知県内でも外国住民が多い地域ということも聞いており、外国にルーツをもつ子どもをどう学習支援につなげていくかが大事なことだと思っているが、分かっていることはあるか。

○まちづくり協議会における子どもの健全育成事業のリーダーを務めているが、今後の方針を考えるために、ベトナムやインドネシアの人たちと面談している。

まず、外国から来た方が苦勞していることとして、日本語をマスターできないことが挙げられる。日本語のコミュニケーションを子どもに頼っている家庭もあれば、親子ともに話せない家庭や、子どもを日本に連れてきていない家庭もある。

さらに、もう少し突っ込んだ話をしていくと、地域でのイベントに出たい、文化に触れたいという意見等もある一方、日本語が苦手な家庭の中には、学校に行かなくてもいい、という子もいる。そういう子どもたちと遊びながら色々試してみたが、その子の将来を考えると厳しい状況に陥っているのではないかと思う。

外国籍の方と一緒にまちづくりをしていくにあたり、何からスタートすべきか考えているところだが、まちづくり協議会の共用スペースに遊びに来ている子どもたちを観察していると、日本人と外国にルーツを持つ小学生と一緒にゲームをして、出身国や学年を超えて交流できている。中には、小学校に通っていない子どももおり、交流を促すツールとしてゲーム以外に良いものがあるか考えているところで、色々面白い意見も出ている。今後、トライアル的に色々やってみたいと考えており、進展等あれば次回の会議等で報告させていただく。

○南中学校では外国籍の生徒は585名中20名。近年、中学校に日本語が全く話せない生徒が増えてきており、中学3年生から入ってくるケースもある。

高浜市では翼小学校と高浜小学校の早期日本語適用教室に3ヶ月間通うことができるが、3ヶ月間で学習言語まで習得できるかというところがかなり厳しく、学校に戻っても、コミュニケーションで苦勞する状態が続いている。

南中では市費で87歳の通訳の方に週3回来てもらい、給食の時間にブラジルから来た子を集めて校長室の隣で会食会を開いているが、とても賑やかで学校に来やすくなっているのを感じている。

また、中3で中国から入ってきた生徒がおり、現在「ステップ」にも参加しているが、学校に中国語に堪能な教員がおり、個別に指導をしている。修学旅行では市から借りた携帯型の翻訳機を持たせてコミュニケーションに使っていた。

この生徒については、母親から「ステップ」の申し込みがあった。「ステップ」では中国語のテキストをやっていたが、数学や英語はとてもよくできる一方、国語や社会は苦勞している。

学校では中国語が堪能な教員の助けや翻訳機を使いながら学び、ステップでは別カリキュラムで指導してもらっている状態であり、あとは入試までにどれだけ本人、または両親のいずれかが日本語を習得できるかにかかっていると考えている。

○港小学校では、439名中57名が外国にルーツを持つ子で、10%を超えている。ただし、幼稚園や保育園から日本に来ている子は、ほぼ違和感なく日本の文化・習慣に溶け込んでおり、学習面でも困ってはいない。

例えば、親が通学の送迎をする習慣があった国から来た家庭では、日本に来て当初は親が毎日送迎することが多いが、3年生くらいになると子どもが自分で歩いて来るようになる。

不登校の面では、特定の子も同土で、親が出かけた後、雨が降っているから休んでしまおうと示し合わせて登校しない、などのケースはあるが、外国籍であるが故になじめない、不登校というのは見受けられない。

ただし、外国から来た発達障害気味の子で、両親が一切日本語を話すことができないケースがあり、今後学校での居場所が見つけづらくなっていく可能性がある。この家庭については、親との面談を繰り返している状況。

また、先ほど委員から話があったが、小学校高学年になってから日本に来たケースで、日本語指導が必要な児童が5人いる。こちらは早期日本語適用教室での日本語指導をしており、学校間で連携してやっている。

「ステップ・ジュニア」についても港小から1人行っているが、出席状況等の状況を学校にも報告していただくことはできないか。

さらに、不登校生徒児童用の「ほっとスペース」利用者と学習支援の連携はどのようになっているか教えていただきたい。

○学習支援における情報共有については、児童所見として毎月の出席状況や所見等を記載したものを学校に提出している。港小の児童については親と連絡が取れており、先月「ステップ・ジュニア」に出席している。算数の計算式はできるが国語や文章問題がなかなか解けない状況であり、苦手科目を重点的に支援している。

○「ほっとスペース」から「ステップ」に入った子どもは、昨年度まではいたが、今年度はまだいない。例年、夏休み中に「ほっとスペース」から「ステップ」に食事をしにきて、そのまま「ステップ」に来るようになる、というケースが数名いる。また、中学校には月1回、出席の記録と1か月の所見を学校に渡しているため、当該校には状況が把握できるようになっている。

○6月28日に「日本語教育の推進に関する法律」が公布、施行されたということで、国の方針や支援の枠組みが今度決まってくる中で、市町村にも責務が求められていく。外国籍の方の就労や多文化共生を担っている人と話していると、ビジョンが見えてこないということを言われたりしており、国の施策を待つのではなく、翻訳機やボランティアを活用する等、先行してできるような支援を、こども未来部のほうで積極的に考えてほしいと思う。

○地域や学校での状況を報告いただいたが、外国にルーツを持つ子どもたちが抱えている問題への対策が組まれているとは言えない状況にあるので、今後、事務局で課題を洗い出して、出来ることを考えて欲しい。

懸念していることの一つとして、日本の学校に行かなくていい、と考えている親や子どもたちが少なからずおり、こうした子どもたちが日本語の習得状況のみならず母国語の習得もままならず、どこにも根付けなくなってしまう懸念もある。

子どもの時にしっかり支援を受けているかが大事だと考えているので、公立学校に在籍しない子どもも含めて、外国にルーツをもつ子どもの状況と課題をまとめ、今後議論していけるとありがたい。

3. 子ども健全育成支援員の活動実績について

資料4記載の事項について、それぞれ意見交換がされた。主な発言の内容は、以下のとおり。

○高校中退者等を対象として、主に高校卒業認定試験合格のための学習支援を無料で実施する「若者外国人未来応援事業」は、昨年までは名古屋市・豊田市・豊橋市で行っており、名古屋市では愛知県立図書館で実施している。今年度は春日井市と知多市を加え、9か所での実施を目指している。

7月に国の補助金があるので、例年7～翌3月まで実施しているが、外国にルーツを持つ子どもも来ており、高校卒業認定試験を受けたいという人も来ている。

○昨年度の相談の中で、通信制を退学して高校卒業程度認定試験に受かった人から試験問題を見せてもらったが、専修学校や私立通信制高校の定期テストよりも、かなり難しい。

外国籍の子どもが高校卒業程度認定試験に合格するのは、現実問題としてかなり難しいと考えている。

○外国籍の子どもの参加については、一昨年は多かったが昨年度以降、減少している。理由を支援団体に聞くと、外国人向けの支援が火曜日の午後限定で、平日の仕事やアルバイトと重なり時間的に難しいということで減少したとのことだった。

愛知県立図書館での支援は週2回に加え、8月と11月の高校卒業程度認定試験1か月前は週3回実施している。この試験は科目別に受けられ、合格科目が持ち越せるので数回受験し積み上げていくことで、日本人はかなり合格しているが、外国籍の子どもについては日本語の問題を理解できることが前提となっている。

高校1年まで学校に行っていた生徒はほぼ問題ないが、全く高校に行っていない場合は中学の内容から始めるので時間がかかるが、成果が表れてきている。

- 「ステップ」に来ている外国籍生徒のケースは、国語が数学等と比べるとかなり厳しい。このままだと一般入試はかなり厳しいと思われる。また、日本語ができない生徒が高校卒業程度認定試験を受けるのはかなりハードルが高いと思う。

県の事業を活用しても、日本語がほとんどできない生徒が実際合格できるかという、データがないので分からないが、難しいのではないかと考えている。

- 昨年度から外国籍の方は減ってしまったが、中国出身の生徒が1人いるので、状況を確認してみる。
- 高校卒業程度認定試験を支援の1つのポイントにするのはいいと思うが、もっと早くから支援することも考えるべき。

例えば、多民族国家であるアメリカでは移民を前提としたESL(English as a Second Language)という特別な英語教育カリキュラムを全校に設け、速やかに英語を習得できるようにしており、語学のみならずアメリカ国民としての意識も植え付けるべく徹底した教育を施すことで、その子の能力を最大限活かすことができるよう支援するとともに、将来的に国に貢献できるようにしている。

また、成果指標の件で、「ステップ」の評価がC、「ステップ・ジュニア」がBという結果になっているが、悪い評価が独り歩きしていくおそれがある。

例えば、成果指標の元となっている「ステップ」「ステップ・ジュニア」の利用者の増減については、学校による参加促進が必要であるし、不登校や中退の数についても、学校の役割が大きく、この結果だけが前面に出ると厳しい。学習支援を通じて、不登校や中退の減少に歯止めをかけ、堰き止めることはできると思うが、学校等と連携して一緒に総合評価をあげていくことも考えていただきたい。

- 先ほどから、外国にルーツをもつ子どもに関する課題が議論の中心になっており、確かに高浜市は県内でも最も外国籍児童・生徒の比率が高く、学齢期の子どもたちの6.2%を占めているが、注目したいのは資料4の生活困窮家庭と不登校児童の相関で、30年度に半減しているという結果になっている。これは学習支援の大きな成果と考えているが、分析はどうか。
- 実際に「ステップ」に来る子どもは生活困窮家庭が多く、「ステップ」に来ることによって不登校防止の歯止めになっていると思う。単年度の結果なので、今年度の相関を見る必要がある。

○仰るとおりで、「ステップ」の存在意義は、まさに困窮家庭における学習支援や子ども食堂を含めた支援だと思う。外国籍の子はこれから増えていくと思うし、課題であると思うが、日本にいる恵まれない家庭で困窮している子どもにもさらに目を向け、支援していくことが重要であると思う。

多くのケースを見ていると、外国籍の子どもは日本の子どもよりもたくましい子が多く、最初は日本語に多少難があっても、できる仕事は十分にあり、立派に生きていけると思う。

一方、引きこもっている子や不登校の子どもは、どうやって生きていくのかと考えてしまう。不登校はもはや学校だけの問題ではなく、社会全体として考えるべき課題となっており、学校が社会の縮図である以上、価値の多様化や多文化共生ということも考えなければいけないが、この会議の主として考えるべきは「貧困の連鎖」の防止であり、貧困家庭や不登校にもっと目を向けるべきだと思う。

○先ほどの「若者外国人未来応援事業」について、高卒程度認定試験に合格しても高校卒業資格が得られる訳ではない。あくまで上級学校に進むためのパスポートであり、学歴としては通用しないが、大学等に進学したいものの高校を中退してしまい、大学等の受験資格が得られなかった高校中退者の受験が多い。委員から指摘があったように、試験はかなり難しく、日本語が苦手な生徒にはハードルが高い。高校に通学せずに大学等への進学を希望する外国籍の生徒には必要な試験だが、現実問題としては高校学校卒業資格のほうが彼らの就職の幅が大きく広がるため、より重要と思われる。

委員からも話があったように、外国籍の方はたくましく、今後高校にも多くの外国籍生徒が来る可能性がある。高浜高校でも定員割れを起こしており、日本語が多少できなくても、必要な基準を満たしていれば入学できる。現在のところ携帯型翻訳機は定時制高校にしか配布されていないが、今後、全日制高校でも言語支援が必要となる可能性がある。

○成果指標については、生活困窮者の不登校児童・生徒を分母にする、というのも1つの取り方だと思う。現在の指標は不登校の子ども全体を母数にしているのでも、経済的に裕福な世帯の子どもや外国籍の子ども等も入っており、少し成果が見えにくいというのがある。もともとは、学習支援事業を実施することで、学校も変わり、不登校が減少する、という仮説もあったかと思うが、より直接的な効果を図るために、生活困窮者世帯の子どもの不登校の出現率で評価する、というのも1つの考えだと思うので、事務局で検討いただきたい。

4. 「ステップ」「ステップ・ジュニア」の実績と今年度の展開について

資料5記載の事項について、それぞれ意見交換がされた。主な発言の内容は、以下のとおり。

○学習支援では保護者との連携がかねてからの課題であったが、今回、保護者会を実施したということで、意義のある成果だと思う。具体的にどのような内容だったのか、また成果や今後の取り組み予定についてご報告いただきたい。

○今回の保護者会には4人の方に参加いただいた。初回ということもあり、コミュニケーション

ョンをとりやすくし、フラットに話せる場を提供することを心掛けた。

具体的には、ステップ全体の説明や1日のスケジュール、イベントの内容に加え、参加いただいた保護者のお子さんそれぞれのステップでの様子を説明し、質問に答えた。質問内容はステップでの様子が多かった。成果としては、交流の場を設けられたことに加え、終わった後に保護者の方同士でお茶をしにいく等、小さいながらも保護者間のネットワークが構築されたことが成果だと考えている。

○保護者会に参加し、その後のお茶会には行かなかったが、普段知れない子どもの面を知ることが知れて良かった。他の保護者からも、分からない点を解消できたり、保護者間の交流ができたことよかったです。

○学習支援に子どもを参加させてくれている保護者の方は、お子さんをなんとかしたい、という思いがあり、そのような熱心な親御さんは学校としても話がしやすいが、不登校児童・生徒の親には、連絡したくてもとれない、家庭訪問しても会えない、というケースが多く、担任も疲弊している現状がある。

そのような家庭に対して、どう働きかけ、子どものために手を取りあっていくかが課題と感じている。

保護者が相談してくれると学校も協力体制がとりやすいが、そのような家庭だけではない、ということが不登校の問題が改善しにくい大きな理由であると考えている。

○他の学習支援の現場でも、子どもが変わることで親も変わっていくということも多くあるので、あまり急がないほうがよいと思う。

改善には時間がかかるので、保護者に対するつながりや情報共有を密にしてやっていく、ということになると思うし、他の現場でも、第三者から子どもの変容や成長を親が知ることによって親が変わっていくというのがあるので、継続してやっていただくと良いと考えている。

5. その他

○次回の開催について

次回は1月以降の開催を予定している。

[予定議題]

- ① 今回の議論を踏まえた対応方針等
- ② 「ステップ」「ステップ・ジュニア」の状況報告
- ③ 評価指標についての検討及び外国にルーツをもつ子どもの状況と課題、子ども食堂と地域連携等について
- ④ その他